

## 鎮魂と復興 誓い共有



### 福島まほろば塾 いわき塾

### 奈良薬師寺 大谷氏×米米CLUB 石井氏

東日本大震災の犠牲者を追悼し、震災、東京電力福島第一原発事故からの復興を祈願する「福島まほろば塾 いわき塾」は13日、いわき市平山崎の如来寺で開かれ、市民らが鎮魂の思い、復興への誓いを共有した。【2面に関連記事】

「まほろば」は優れた美しい所を指す言葉で、奈良薬師寺は日本の美しい心と文化を広めるため「まほろば塾」を全国で開いている。震災、原発事故から5年の節目に合わせ、津波で甚大な被害を受け、さらに原発事故により、大勢の双葉郡の住民が避難生活を送るいわき市を会場に、福島民友新聞社が薬師寺まほろば塾と共に開いた。

県内外の約300人が聴講した。犠牲者追悼と復興



2人の対談に聞き入る聴講者

祈願の法要が行われ、浄土とができる」などと話し、震災、原発事故から復興に歩む人々に自らの「心」の大切さを説いた。

大谷氏と親交の深い人気バンド米米CLUBのボーカルで、アーティストとしても活動する石井章也氏が登場し、大谷氏と対談。石井氏は母親がいわき市出身の縁など本県との関わりを

明かした上で、子どもたちへの支援や風評払拭などへの思いを語った。

石井氏は大谷氏が作詞し、自らが作曲した「掌(てのひら)」など4曲を献歌として歌い上げた。「焦らず／＼歩ずつ／諦めず／夢を捨てず／一歩踏み出そう」。

大谷氏の被災地への思いをつづった歌詞と石井氏の思いが重なり、感動を呼んだ。

福島民友新聞社、薬師寺まほろば塾の主催、法相宗大本山薬師寺、浄土宗災害復興福島事務所、読売新聞東京本社福島支局、福島中央テレビの後援。

### 福島まほろば塾 いわき塾

いわき市平山崎の如来寺で13日に開かれた「福島まほろば塾 いわき塾」は、奈良薬師寺執事の大谷徹斐氏が、仏教の教

えから人間の生き方を説いた。アーティストの大谷氏の対談や、被災、原発事故からの復興の道を歩む県民を励ました。【1面に本記】



大谷氏の法話や石井氏の献歌などを通して復興への思いを共有した「福島まほろば塾 いわき塾」13日午後、いわき市平山崎・如来寺

### 石井氏 避難者思い「ふるさと」歌う



献歌を披露する石井氏

大谷氏と石井氏の対談で、石井氏が「母親がいわき出身で、姉の古里だと思ってる。一日たりとも福島県を離れたことはない」と本県への思いを語った。さらに、石井氏は風評被害が払拭できない一方で、風化する現状を危惧し「遠くから福島に来た方には、福島の本当の姿を伝えてほしい」と訴えた。

大谷氏は奈良薬師寺のコンサートが石井氏との出会いだったエピソードを紹介。「一般の人がお経を聞いても伝わらないが、音楽は人の心に響くものがある」と、被災地で歌い続け

ることなく、復興の道を歩む県民にエールを送った。

聴講者は、石井氏の被災者の心に語り掛けるかのような歌に共感し、時にはハンカチで涙を拭いながら、聴き入った。

「心にしみた」

聴講者ら感動

聴講した人々は、大谷氏の法話や石井氏の献歌を通して、東日本大震災、東京電力福島第一原発事故からの復興の誓いを新たにしたい。大谷氏の法話は、覚悟を持って生きることや夢の実現のために生きることなどを伝えた。いわき市の安養寺副住職鈴木孝明さん(43)は「心にしみた時間だった。一日一日を精進に歩み

## 法話や献歌 県民励ます

### 心の使い方で世界は幸せに

#### 大谷氏法話要旨

悟りの原語は「自覚」といふ三文字だ。上の二文字は「自覚」であり、下の二文字は「覚悟」だ。自分の心で決めたことは自分で耐えることができる。多くの被災者に接してきたが、(自)分の意志で(こ)の苦しみから立ち上がることを人は自分の命を使うこと。やどんどん強くなっている。

「まほろば」は優れた美しい所を指す言葉で、奈良薬師寺は日本の美しい心と文化を広めるため「まほろば塾」を全国で開いている。震災、原発事故から5年の節目に合わせ、津波で甚大な被害を受け、さらに原発事故により、大勢の双葉郡の住民が避難生活を送るいわき市を会場に、福島民友新聞社が薬師寺まほろば塾と共に開いた。

県内外の約300人が聴講した。犠牲者追悼と復興



仏教の教えなどに触れながら法話をする大谷氏